

公共施設の再編に関する意見交換会 概 要 報 告

日 時 令和元年11月2日(土)10時00分～11時40分
場 所 湯沢市役所本庁舎 2階会議室25・26
対 象 地 区 湯沢地域(湯沢南中学校区)

参 加 者 7 人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
湯沢地区	7	7	0	0			0			0			0			2	2		4	4		1	1	
そ の 他	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0		
計	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4	4	0	1	1	0

市 出 席 者 湯沢市公共施設アドバイザー、
総務部長、企画課長、企画政策班長、担当

概 要

開 会

あいさつ

総務部長



説 明

- (企画課)
① 公共施設を取り巻く課題
② エリア別の公共施設再編方針(案)の概要
③ 集会所の地元譲渡にかかる支援策の概要



概 要

情 報 提 供

湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏



質疑応答、 意見交換



○説明を聞いて、将来、未来の公共施設のあり方について、それなりの展望が見えてきたと感じている。民生委員として小中学校を訪問しているが、湯沢南児童クラブが非常に狭い状態だということが問題視されている。新しく建てるというより、隣接しているコミュニティセンターなどを活用しながら、のびのびしたところでの放課後支援をしてほしいと思っているので、民生委員の児童福祉部会や定例会でも訴えていきたい。

⇒(市)湯沢南児童クラブは平成29年度に増築している。コミュニティセンターと併設しており、平日午後は研修室を児童クラブが他の利用より優先して使用しているため、一定程度は解消できているかと思う。今すぐ建物をどうするかという計画はないが、可能性としてコミュニティセンターの機能が移転して児童クラブとして全体を使えるようになるのか、子どもたちの活動状況も見ながら、子どもたちの安全、居場所の確保という観点から検討課題としたい。

⇒(アドバイザー)私も現場を見ているので、今後、具体的な対応を提示したいと思う。

○稲川地域では補助金を活用した集会施設が多く、前々から譲渡について協議していたところだが、ようやく支援の仕組みが示されることとなる。方針が決まったら、それぞれの団体に対する働きかけをできるだけ早くやっていただきたい。おそらく会館としては、要らないということになるのではないかな。

⇒(市)集落単位の集会施設については、合併前の市町村ごとの考え方があり、稲川地域では地区センターが無いが、小学校区、地区単位の施設として老人憩いの家を補助事業を活用して設置した経緯がある。しかし、時代の変化によって現在は集落の会館的な利用をされている状況であり、合併後は他の地区とのバランスもあるため、町内会に譲渡したいということを進めている。これまでも話し合いをしてきたが、具体的な支援策を提示できなかったため、今後はこの支援策をもって協議を進めてまいりたい。

⇒(アドバイザー)今は国も財政が厳しく、ハコモノに対する補助制度は、無くなったり予算が絞られたりして採択が少ない状況である。そのようななかで国の財源を確保して集会施設を造るというのは、防衛省の補助金を除くと、非常に難しい状況になっている。そのような点からも、大きい施設を造るというよりは、現在ある施設をどうやって有効活用していくのかというソフト面を一緒になって考えていければ良いと思う。

○市役所周辺、駅周辺についてももう少し詳しい計画が求められると思う。

⇒(市)湯沢生涯学習センター、湯沢勤労青少年ホームは老朽化しているため、駅前の土地を利用して移転し、他の施設と複合化、多機能化したいという考えである。解体した跡の土地については、土石流・急傾斜警戒区域に含まれているため、建物は建てるべきではないと思っている。まだ具体的にはっきりとはお示しできないが、建物は建てずに、多目的に利用できるイベント広場として活用できるような整備をして、犬っこまつりや七夕絵どうろう、うどんエキスポ等のイベントの際に、もっと多くの方々を呼び込めるような機能を持たせたいというイメージである。また、移転先の駅前については、解体予定の消防庁舎部分と未利用地を合わせたところに、施設整備するなど有効活用していくという考えである。

⇒(アドバイザー)駅前の土地は約1万平米あり、建ぺい率、容積の関係を考えて、複合化する公共機能を合わせても使い切れないこととなる。残りの部分をどう有効活用していくのかは、やはり民間のノウハウを活用していかないと埋まりきらないので、そういったところも含めて検討が必要な状況である。

○いろいろ説明があつたが、基本的には大変良いと思う。湯沢生涯学習センターは高齢者が多く利用しているので、どこへ移るか心配していたが、駅周辺とのことで良かった。ぜひ実施してもらいたい。ただし、ある程度の駐車場も必要ではないかと感じるので、考慮して計画していただきたい。

○各町内で所有している会館に対する補助制度はあるか。市で所有している施設は、町内会館であっても市で経費を負担していると聞いた。すべてでなくても半額程度負担してもらえないか。

⇒(市)集落会館について、新築や増改築等に対しての補助制度を準備しているが、維持管理への補助はないため、地域の皆様の会費で賄っていただいている状況である。

○人口減少、高齢化のなかで、施設が老朽化したからといって建て替えることは無理なことだと思う。半分は難しくても3分の1以上は減らさなければならないのではないかな。このような現状を、市民がどこまで理解しているのかが、一番ネックになっていると思う。理解はできるが、どうしてもあれもこれも欲しい、やって欲しいとなるのが一般的であって、それを抑えて無理だということを自覚させることが重要だと思う。例えば3分の1を廃止したとしても、残った施設にいかに複合化、多機能化させ、減らした分を代替していくのかが大事である。ただし将来、5年後、10年後ではかなり考えが変わってくると思うので、かなり極端な考え方でやっていかないと、追いつかなくなるのではないかな。難しいことと思うが、全体的に見込みが甘いと思う。

⇒(市)数字上の話ではあるが、人口の推移や、財政力の面から施設総面積を45%削減しなければならないという目標を立てている。いろいろな広報活動や意見交換会、あるいは要請に応じた出前講座等で、市民の多くの皆様に現状を知っていただき、御理解を得られるよう力を入れていきたい。

⇒(アドバイザー)広報に掲載しても不十分だと言われることがある。行政としてはやったつもりでも、実際はなかなか情報が届いていないというジレンマがあるが、多くの方にこの問題を考えていただけるよう、いろいろな説明の機会を設けていくことが必要である。市長にいろいろな場面で、少しずつ浸透していくよう発言していただくことも必要だと思う。また、地域の皆様にも、集会の際には、市へ説明の機会を設けていただければありがたい。

今回の計画は、20年、30年先を見据えながら、この10年間はどのようにしていくのかというスタンスで作っている。20年、30年先を明確に示せる訳ではないので、進捗状況を点検しながら、5年ごとに見直していく必要がある。できたのか、できなかったのか、できなかったのはなぜなのか、どこにボトルネックがあって、どのように整理すれば前に進むのかを検証していく。市の目標である45%の削減は、少しハードルが高いと思っているが、できるだけそれに近づけていけるよう恒常的な努力が求められる。ただし、公共施設を見直した結果、サービスが低下するようなことでは本末転倒である。施設が無くなっても中で行っている必要なサービス、機能は、他の場所に移転するなどして維持しながら公共施設の見直しを進めていくのが基本的なスタンスであるので、御理解いただきたい。

○財政面、市民サービスの件も含め、駅前に多機能型施設ができることは当然の流れだと思うが、市で考える中心部は、私たちの考える中心部とは若干違う。金額的なもの、メリット、デメリットなどあるが、一番変わってしまうのは人の流れである。市役所本庁舎の場所には、以前は小学校があった。そこに湯沢勤労青少年ホーム等ができて、そして、市役所ができた。昔は消防署、警察署、地域振興局、河川国道事務所が柳町周辺にあったが、狭いなどの問題で移転した結果、人の流れが大きく変わってしまった。柳町では再開発事業がなくなり、商店もどんどん閉店していく状況にあるが、集客力のある施設が建つことで、人の流れ、にぎわいが集まると思うので、そのように考えてもらいたい。

⇒(市)一つの公共施設が人の流れを変えようということはよくあることだが、現時点での市の考え方としては、新市においての中心市街地は、地区再生計画に基づき、サンロードのバス停から半径500m圏内としている。範囲としては、駅周辺、市役所周辺、雄勝中央病院跡地などが入り、この周辺が、中心市街地として公共施設を備えるべきエリアだと考えている。柳町においては、民間事業者が主体となった再開発事業という話があったが、断念することとなった。そういったなかで、消防署跡地とその奥の未利用地の利用、駅から市役所までの4商店街の人の流れをどう作るかについては、本当に重要なことだと考えている。しかし、湯沢生涯学習センターの老朽化、消防署移転後の空きスペースの課題があり、それを一体的に解決するためのプランが、今回お示したエリア別再編計画である。この計画の実現と合わせて、4商店街までの人の流れをどう作るかについては、地域の皆様と一緒に取り組むべき課題だと考えている。計画は、ただ建物を造るということではなく、人の流れをどう作るか、活性化をどうするか、多機能、複合化して良いサービスをしていくことなどを総合的に考えていかなければならない。

⇒(アドバイザー)まだこのプランを聞いただけでは納得できないと思う。公共施設の移転集約とともに、公共施設だけでは使い切れないスペースをにぎわい創出のために何を入れ、そこに集まった人たちをどう回遊させるのかという商業振興策を具体的に考えなければならないと思う。単に公共施設を造ればよいという話ではないため、全庁的な課題として、まちづくりとしてどうしていくのかという観点から整理をしていただきたいと思います。まずは移転先を決め、その後、中身をどうしていくか、民間の協力をどう得ていくかを少しずつ整理していく時間が必要である。

○柳町、大町、北荒町等町内会館がない地区は、生涯学習センターを町内会館として利用しているので、離れてしまうと非常に使いづらくなる。利用している者としては、できるだけ近くに欲しい。

⇒(市)生涯学習センター近くの市役所本庁舎には市民ロビーや2階に市民に開かれた会議室機能を備えており、夜10時まで利用できるので集会の場として検討していただきたい。

⇒(アドバイザー)今回お示したプランには、生涯学習センターは学習の場だけでなく、地域の課題を解決するために地域の活動拠点としても使えるような機能を付加することが書かれている。地域の皆様が活動できる機能を含んだ生涯学習センターの中身作りをしているところなので、早く方向性が出せるよう取り組んでいく。

○まちの活性化を考えたときに、いつも一極集中化してしまうので、駅周辺に複合施設ができたなら、すぐに跡地を利用してもらいたい。空き地を遊休地にしないよう、公共的な駐車場を作って、イベントなどに利用できるようにしてもらいたい。

⇒(市)十分参考にしながら計画づくりを進める。

○かつて、空き家を利用してグループホームを設置したことがある。耐震や老朽化により解体するものは仕方がないものの、まだ利用できるものは民間などに利用してもらうなどして、効果的に再編してほしい。

⇒(市)廃止した建物については、何でも解体という考えではない。建物がまだ使える状態であれば、他の用途に転用できないか、行政用途として転用の可能性がない場合は、地域の皆様の活動で利用されないかという御相談をさせていただく。それでも利用が無い場合は、民間企業等への貸付、譲渡を検討する。民間企業等による活用に際しては、正規職員の雇用等を条件に、民間企業に安い値段で貸付、譲渡することができる。それでもなお使い道がない場合は、維持コストと比較し、解体を実施する。

○湯沢勤労青少年ホームには、保護司会のサポートセンターがあるがどこに移転するのか。他にも利用している団体に対しては、早めにお知らせして協力を仰ぐという根回しも必要でないか。

⇒(市)湯沢勤労青少年ホームに限らず、廃止の方向性とした施設については、事前に説明を尽くして御理解をいただいたうえで進めていく。利用団体に対しては個別に御説明、御相談の場を設けていかなければならないと考えている。

⇒(アドバイザー)計画が決定してからの説明も必要だが、担当課は、決定前でも市の考えを情報提供しながら進めていく必要もあると思う。そういった丁寧な対応が話し合いの第一歩になる。

○市民を中心に考えてもらいたい。雄勝中央病院に行くためにバスは出ているが、タクシーだと2,000円、3,000円かかり、お年寄りも苦労している。湯沢西小学校も線路脇すぐにある。もう少し計画を練って建ててもらいたい。商工高校の跡地は何に使うか分からないが、道路を拡張しており、かなりの家が移転しなければならない。やっていることがちぐはぐに見えるため、市民を利便性を中心に計画的に進めてもらいたい。

⇒(市)先々のことを見据えて、皆様に情報提供しながら進めてまいりたい。全員賛成ということは難しいが、大多数の合意のもとに進めていくという気持ちで、取り組んでいく。商工高校跡地は、さまざまな活用が提案されていたが、市では工業団地として位置付けしている。岩崎の工業団地は全部埋まっており、今ある企業も拡張するなど土地が不足している状態であり、新たに企業を誘致したくても土地がない状況だったため、商工高校跡地を市が保有する工業団地として位置付け、広くPRして企業誘致の活動に努めている。そのため、国道までの接続を改良する拡幅工事を行っている。

⇒(アドバイザー)これまで行政は、縦割りで施設を整備してきた関係上、ちぐはぐな公共施設の整備が行われてきた。一つの施設がどこかを改修した後2、3年経つと近くの施設で別の改修が行われていることが往々にあった。一緒に実施していれば費用が抑えられたのではないかと、なぜ近くに同じような施設があるのか、ということが後になって発見されることがある。一つのエリアを面で見ると、同じような時期に建替が必要なものがあるならトータルで考えた方が良くはないか、という考えで今回のエリア別再編のプランを提案した。今回示したプランについては、地域に持ち帰って御協議いただき、市に御意見をいただくか、さらに市に説明を求めて意見交換するような場があっても良いと思うので、そのような機会をお作りいただければと思う。